

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520367

研究課題名（和文）複合メディアによる東京弁アーカイブの構築と電子的公開

研究課題名（英文）The research of constructions for archiving Tokyo dialect with Multimedia.

研究代表者

秋永一枝（AKINAGA, Kazue）

早稲田大学・文学学院・名誉教授

研究者番号：20063381

研究成果の概要：

「複合メディアによる東京弁アーカイブの構築と電子的公開」の目的は、旧来の研究では埋もれてしまう可能性のあった東京弁としての貴重な一次資料を、汎く利用できるような形にして蘇らせようとするものである。秋永の聞き取りによるアクセントなどの言語情報が付加した自然度の高い談話資料として、文字化データと音声データをセットで利用できるよう電子化し、談話資料、アクセント資料、東京方言語彙資料のデータベースとしても利用できる基礎資料を完成させることができた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,400,000	0	1,400,000
2007 年度	900,000	270,000	1,170,000
2008 年度	500,000	150,000	650,000
総計	2,800,000	420,000	3,220,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：(1)東京弁(2)アクセント(3)文字化資料(4)音声資料(5)データベース

(6)アーカイブ化(7)東京方言(8)声点

1. 研究開始当初の背景

研究代表者秋永一枝は、1975(昭和50)年頃より、大型録音機(オープンリール)を利用して、東京旧市内生育者、明治生まれの高年層の発音・語彙を調査して、一部文字化資料を発表した。その後、1989(平成1)年から1993(平成4)年にかけて、東京旧市内生育、明治末から大正生まれの高年層を対象に、発音を中心とした調査を行い、田中ゆかり・松永修一と共に、調査結果を報告した。この他、少数の話者には、ほぼ30年間に渡る調査を続けている。調査録音データはさまざまな保存媒体によるものであるが、延べ200本以上に達する。

これらのデータをもとに研究代表らによる『19・20世紀東京弁録音資料のアーカイブ化とその総合的研究』(2003~2005)では東京旧市内(旧15区)を生育地とする話者の録音資料をデジタルアーカイブ化し、汎く利用できる言語資料の作成を大きな目標として研究を行ってきた。秋永が行なった東京方言調査【東京旧市内(旧15区)を生育地とする話者の】で200本近い様々なメディアに記録された録音資料はその資料価値は高いものの、劣化の危険性があった。一刻も早くデジタル化・アーカイブ化し、汎く利用できる言語資料の作成が求められていた。

2. 研究の目的

旧来の研究では埋もれてしまう可能性があった東京弁としての貴重な一次資料を、汎く利用できるような形にして蘇らせる。また、秋永の聞き取りによるアクセントなどの言語情報が付加した自然度の高い談話資料と

して、文字化データと音声データをセットで利用できるよう電子化し、談話資料、アクセント資料、語彙資料のデータベースとしても利用できる基礎資料を作成する。

自然度の高い談話資料として、また何よりも、東京方言研究者として長年研究してきた秋永の聞き取りによるアクセントなどの言語情報が付加された文字化データと音声データをセットで利用できることは言語研究者のみならず教育関係者の中での利用も期待できる。研究者の手によって分析された加工された形でしか見る(聞く)ことしかできなかった資料の公開は新たな研究の可能性を広げることができる砥考えた。

3. 研究の方法

本研究の、重要な要素である音声資料の文字化は、作業の進行の過程で、ルーティン化し、方言音声はカタカナ表記で、共通語訳は漢字かな混じり文で、それぞれ文字化を行った。文字化は原則としてプレーンテキストで入力する方法を踏襲した。今回の文字化では2行1セットで、アクセントの付与は0123等の記号によって行ないながら作業を進めている。

本資料は、秋永の聞き取りによる東京方言アクセントなどの言語情報を付加し、音声資料としてもデータの圧縮もかけず、音響分析にも十分耐えられる形式でアーカイブ化する。利用価値を高めるために汎用ツールでもあるPDF化のルーティンを確立する。また、DVD化Web上での公開を想定したファイル形式の模索を行なった。

本研究で用いた資料は以下のデータを基にした。

【A調査】

〔調査時期〕1975年~1980年

〔被調査者〕旧東京市内(旧15区内)生育の調

査当時 60 歳以上の男女 24 人
(東京弁話者として不適当と思わ
れる若干名は含めていない)

〔記録媒体〕オープンリールのみのデータと
カセットテープによるデータ

〔調査背景〕秋永自身による旧東京市内生育
者発音・アクセント・語彙項目

(「NHK放送文化基金」による共
同調査として始めた調査だが、
秋永自身による調査以外は含ま
ない)

〔調査項目〕発音・アクセント・語彙項目。
東京の地名・風俗・方言などに
関する談話を含む

【B調査】

〔調査時期〕1989 年度～1992 年度

〔被調査者〕旧東京市内(旧 15 区内)生育の調
査当時 65 歳以上の 23 人 (M12・F11)

〔記録媒体〕DAT とカセットテープで録音
したものが主。一部カセットテ
ープのみのデータも存在する

〔調査背景〕文部省重点領域研究「日本語音
声における韻律的特徴の実態と
その教育に関する総合的研究」
(平成元(1989)年度～平成
3(1992)年。以下、『日本語音声』)
における A1 班「日本語音声に
おける韻律的特徴:東京都(及び
放送関係者)における音声の収
集と研究」(以下、「東京班」)の
発表者らが収集したデータ。秋
永は研究分担者として、松永・
田中は研究協力者として参加し
た。

〔調査項目〕『日本語音声』全国共通項目と秋
永による東京弁音声・アクセ
ント・語彙項目(地名など固有名詞
含む)

【C調査】

〔調査時期〕1975 年～2002 年

〔被調査者〕東京旧市内(旧 15 区内)生育の中
高年若干名の継続的調査

〔記録媒体〕オープンリールとカセットテ
ープによるデータとカセットテ
ープのみのデータ

〔調査背景〕秋永自身による東京弁発音・ア
クセント・語彙(地名など固有
名詞含む)の同一個人に対する
経年的調査

〔調査項目〕秋永による東京弁音声・アクセ
ント・語彙項目(地名など固有
名詞含む)。東京の風俗・方言な
どの談話を含む

4. 研究成果

本研究で完成させた 16 資料の「音声+文
字化」は PDF 化し、インデックスから音声あ
るいは文字化資料の該当部分にアクセスで
きるよう設計した。このことにより東京方言
の伝統語彙、あるいはアクセント、音声的バ
リエーションの実態を高品位な音声で知る
ことができるようになった。

文字化は、3 行セットで行った。

構成は次の通り。

1 行目 カタカナ表記(「ガ行鼻
音」表示は「カ° キ° ク°
ケ° コ°」)、「無声化」表
示は、無声化部分のカタ
カナの上に「」を付し
て表示。「ヒ」など)

2 行目 漢字平仮名混じり表記

3 行目 アクセント情報(アクセ
ント核の位置をアラビア
数字で示す。)

1 行目の「ガ行鼻音」「無声化」表示と、3
行目の「アクセント型」表示については、東

京弁として重要と追われる位置についてのみ示した。

文字化資料のトップに、それぞれ被調査者情報を示した。

情報は、「話者(氏名<イニシャル>・性・生年・生育地)」「調査者」「調査年月日」「収録場所」「調査の種類」。

文字化資料は、それぞれ PDF の形式で DVD 化し、音声資料もその中に収納した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6 件)

秋永一枝、「僻案抄」声点考、論集、アクセント史研究会、P1~P16、2006 (査読:有)

田中ゆかり、「とびはね音調」の採否とイメージ - 東京都西部域高校調査から -、語文 日本大学国文学会、P54~P1(左)、2007 (査読:有)

上野和昭、和語から成る複合名詞アクセントの史的考察、論集、アクセント史研究会、P53~P80、2007 (査読:有)

坂本清恵、単語認識の手がかりを探る、論集、アクセント史研究会、P81~P100、2007 (査読:有)

田中ゆかり、「とびはね音調」の成立と拡張、研究叢書「音声研究のパラダイム」372、P147~P174、2007 (査読:無)

松永修一、いわゆる“ザアマスことば”の使用と音声的特徴の一考察、論集、アクセント史研究会、P101~P109、2007 (査読:有)

〔学会発表〕(計 2 件)

秋永一枝、東京弁の 20世紀(発音について)、日本語学会 2007年度春季大会

田中ゆかり他、東京圏の言語景観 山手線各駅調査と鉄道会社アンケートから、日本語学会 2007年度秋季大会

〔図書〕(計 1 件)

秋永一枝、日本語音韻史アクセント史論、笠間書房、464ページ、2009

6. 研究組織

(1)研究代表者

秋永 一枝 (AKINAGA KAZUE)
早稲田大学・文学学術院・名誉教授
研究者番号: 20063381

(2)研究分担者 (2006~2007)

上野 和昭 (UENO KAZUAKI)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号: 10168643

坂本 清恵 (SAKAMOTOKIYOE)
日本女子大学・文学部・教授
研究者番号: 50169588

田中 ゆかり (TANAKA YUKARI)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号: 40305503

松永 修一 (MATSUNAGA SHUICHI)
十文字学園女子大学・社会情報学部・講師
研究者番号: 40312318